

天瀬町・山田家文書「御用談記」について(上)

天瀬町 日隈 亨

山田家文書は、十七・十八世紀にかけての天領奥五馬筋本城村を中心とした村方文書である。

その内容は、①日田御役所(布政所)と本城村間の、年貢割付・皆済目録や上申書・熟談内済等の文書、②主として本城村に関する、村勢・戸籍・絵図・村申極・村内他村との紛争処理・土地譲渡質入・貸借等の文書、③主として明治以降の山田家の私的文書・史料(金券・地券・土地名寄帳・租税初納金取立帳・廻章留・約定書・咸宜園で使われた各種板本や写本等)に大別される。これらは比較的保存がよく、先哲資料館の平井氏(現在宇佐の歴史博物館)の御助力で、凡てマイクロフィルムに収録され、その点数は四五〇〇点に及ぶ。

今回紹介するのは、山田家文書の「御用談記」である。これは慶応四年(一八六八年)六月から明治四年(一八七一年)四

月までの、約三年間の奥五馬筋六村庄屋の用談記である。明治維新動乱期の、天領日田県の政治の記録ともいえる。若冠三十三歳で着任した松方正義知事は、新政府の方針や県政運営の基本を、布告・下達文書として示し、その徹底を図る為に庄屋に会談・協議を求めている。布告・下達の文書だけでなく、県政を進めていく上で当面していた諸問題や施策などが刻明に書き留められている。

辰六月十六日本城團九郎宅出會

筋代塚田俊左衛門 桜竹 楯藏

此節改而從

新城村庄屋

又市

朝延庄屋役被

塚田村庄屋

俊左衛門

仰付候

五馬市村庄屋

森 謙平

桜竹村庄屋 楯藏
出口村庄屋 弥左衛門
本城村庄屋 團九郎

右之通申付候間入念可相勤候

辰六月

松方助左衛門

右当所知果事役被 仰付人民を繁育シ生産を富殖シ教化を敦シ
刑賞を知り郷兵を創るを掌ルヘク旨御委任被 仰出候ニ付追
て沙汰可有之候条無洩目一統ヘ可申渡事

六月

知果事務所

当陣屋之儀以來知果事役所与相唱候ノ様被 仰渡候事

六月

口達之主意

今般重任を蒙里在職別分して心配候ノ以來不行届之儀者少も
無遠慮申聞度ノ住事ハ問わず悪習ハ改め從ノ朝廷被 仰渡候

御定札之御趣意者ノ勿論追々被 仰出候儀者嚴重相守益廉直
にノ各職業相励上下心を一にして御奉公相勤候ノ儀第一ニ存

候 万一向後御趣意ニ相背き民間之ノ妨をなし又者賄賂等相
用私欲ケ間敷儀ノ者相關るにおいては岐与可及沙汰候条此旨
一統深く汲受候様其方共ニ叮嚀ニ可申論事

六月

流産之事嚴重被 仰渡候事

此度上書籍出し候者下々之情上に通し人心ノをして安からし
めんと之趣意なれハノ御為筋ハ無申迄其外何事によらず所存
有ノ之候ハ、少しも無遠慮封書ニ而可申出候ノ文面ハ仮名書
にても意味委く通し候を專ニシ尤事柄ニより直に尋答い
たし度候儀もノ可有之ハ勿論之儀ニ候得者名可差出事
但無名之封物ハ一切不相成候

右之通相違上書籍者ノ知果事役所前ヘ差出置候間市中ノふ洩
様可相触候

辰六月

乍恐以書付奉申上候

今般御一新ニ付御差掛御役所御取調ものノ有之間郡中庄屋之

内御用手伝ニ可相成者／人撰いたし四五人程名前書上候様昨
日惣代庄屋／先迄被仰渡一同承知奉畏候 御沙汰之趣早速／
申談人撰いたし候得共御用並仕候見込もの無／御座候間乍恐
御上様之御目鑑を以被／仰付候様一同奉願上候 依之惣代私
共一同／印形仕願書奉差上候 以上

筋々 惣代

六月十三日申談

一知県事様被 遊御入郡郡村御取締／其外別紙之通敷通御書
取を以被／仰渡候間夫々御写取小前之人別無洩落／御申論
被成候事

一御一新^ニ付^而者村々庄屋者今日^ニ改^而／庄屋役被 仰付候間
猶出精いたし相勤候旨／被 仰付候^ニ付^{此上}精勵可致事

一御役所御調掛り庄屋之内人当郡中^ニ人撰／いたし封札可差
出敷又者有無可申上旨／被 仰渡候間早々御返答有之度事
一当郡之儀至而人少之村方も有之田畑手餘地／亦者空地等多
分有之趣然^ルニ難^レ没^之小前之／内心得違^ニ而懷胎之子供流産
為致候／ものも有之以外人数同様之儀^ニ付^{今般}／御一新
^ニ而右様之儀決^し而不相成若子供／養育難出来小前有之^ニお

ゐてハ／御上迄御引揚御養育被下候との難有／御沙汰^ニ付
急度相守り心得違不致様末々／迄御申論可被成事

一惣代出勤日限無滞滞御出勤被下度事

一会所詰鬼三太跡役早々御取極被下度事

辰六月

一役前精勤いたし候者勿論之事^ニ候得共今般／改^而役儀被

仰付候上者別而入念不相勤^而者／考人之不勤^ニ而一筋之御用

意味違等出来／御役申越度可相成も難斗候間筋代等者／其

同番^ノ急度相勤尤名差之分者其者／相勤自然無坳差支有之
候節月番^ノ代勤可致管堅申談候事

辰六月

皇政更始之折柄富国之基礎被為建／度衆儀を宅し一時之権法
を以金札御制／造被 仰出世上一同之困窮を救助被遊度／思
召^ニ付^当辰年^ノ来^ル辰年迄拾三ヶ年之間／皇国一円通用有之
候御仕法を以左之通相心／得可申もの也

但通用日限之儀者追^而可被仰出候事

右之通被 仰出候間末々迄^ニ洩様其向々^ノ／早々相触へく候事

辰閏四月

大政官

一金札御製造之上列藩石高ニ応シ万石ニ付壹万ノ兩宛拝借被仰出候間其筋へ可触出事

一返納方之儀者必其金札を以毎年暮其金高々〇ノ壹割宛来ル辰年迄拾三ヶ年ニ而上納払切之事

一列藩拝借之金札者富国之基礎被為建度ノ御趣意を奉體認産物等精々取立其国益ノを引起し候様可致候 但其藩之役場におゐてノ狼ニ遣込候儀者決し而ふ相成候事

一交接及近郷之商売拝借願上度ものハノ金札役所へ可願出候金子等者取扱候産物高ニノ応御貸渡相成候事

一諸国裁判所始諸領地内農商之もの共ノ拝借等申出候得共其身元厚薄之身込ノヲ以金高貸渡産業相立候様可致遣すノ尤返納儀者年々相当元利為差出候事

但遐邑僻陬といへとも金札取扱向者交接商賈之ノ振合ヲ以取計可致候事

一拝借金高之内年割上納之札者捨無斗ノ扁載掛け捨可申事 但正月七月之分ハ其暮壹割上納七月〇十二月迄ノ拝借之分ハ五分割上可致事

右之通御趣意を以即今之不融之御之御移ひノ被為遊度御仁恤之思食ニ候間心得違有之間ノ敷候 尤金札ヲ以貸渡金札ヲ以返納しノ御仕法ニ付替一切無之事

閏四月

右之通從京都 被 仰下候旨從ノ惣督府〇御達有之候間可得其意候

辰六月

塚田 俊左衛門

新城 又市

森 謙平

桜竹 楯藏

出口組頭長次郎

本城 團九郎

辰六月

六月十九日惣代演説

筋代新城 又市

一朝廷無御抛御場合ニ候間其分ニ応し御用金ノ相勤度志之もの者当御役所江可申出御返弁ノ之儀者篤与御取極之上追而御沙汰有之趣ノ被 仰渡候間一同相勵身分ニ応し員数ノ取

極書附ヲ以早々御申出可成候事

一宗門帳並家数人別差引増減帳共七月十五日ノ限り相納候様被 仰渡候間右日限無遅滞ノ上納可被成事

但是ハ御廻状も廻達ニ相成居可申候得共 是迄諸納物ノ

日限差至候而も差出村方有之取調方差支候ニ付ノ右日限ハ早キ分ハ宜候得者無遅滞十五日限相納候様別而ノ被

仰渡候事

一御高札定札三枚之儀者未タ不納之村方茂ノ有之趣早々相納候様被 仰渡候事

但覺書二枚之儀者一兩日 遅滞致候而も苦候事

一会所小廻跡役評定致被下度事

右之通通知いたし候 以上

辰六月十九日

会所詰並惣代江為心得

皇運新ニ復し国定漸ニ定リ萬機ノ御新戴ニ出て百年まさに備らんとす 是時ニノ当て独り備らざるもの者金穀なり右は全くノ徳川慶喜政權奉還之節国家之用途ノ併せて返上勿論たるへきの所其儀いまたノ相運ハさる内春來之始末に至リノ朝廷無

入所して 出後所之御費用不一方ニノ依り況や頃日征討之兵

士家を案身をノ殺して途報国之析柄萬一運費給せずノ兵食不

足時者奮進勤絶の鋭気を挫きノ皇威これのために弛み平治の

功業速に立ノさる時者億兆の黎庶久しく塗炭の苦をノ受けん

と恐多くも日夜ノ御辰憂般為遊就而者内外百官の輩者ノ申迄

も無之晋天卒土の臣民聖旨をノ奉承し朝恩を威戴し畢生報効

ノ此時にありと覺悟し兵力あるもの者ノ其力を以てし貨財あ

るもの者其財をノ以てし上一般ニし力を合せ四海平定のノ

功を御扶植可致事ニ付銘々一人之私を捨てノ天下之大事を考

え有餘不足を補ふの天理ニノ基キ各其分ニ応し今般御用途相

勤ノ奉公筋を遂了候ハハノ朝廷に尽すと同しく下たるもの、

ノ定分ニ候間此旨篤与可心得もの也

但御返弁方之儀者其筋々ハ可談候事

五月

大政官

右之通被 仰渡候儀誠以無御拠御場合ニノ候間其分ニ応し御

用金相勤度志之者者ノ当役所迄相付可申出御返弁方之儀者篤

与ノ取極迫而可及沙汰候事

六月

知果事役所

前書之趣被 仰聞候間身元々成立ものノ篤与相考意味違無之

様御申諭御用途ノ相勤候様御取計可成候 以上

辰六月廿四日

新城 又市

乍恐以書附御届奉申上候

日田郡奥五馬筋村々当辰田畑之儀霖雨ニ而ノ田方者水捍畑方ハ
根付後ニ而生立無甲斐罷在ノ候処 土用中 天氣ニ相成候ニ付
追々立直り候間ノ大キに相悦居候処七月上旬大風雨後ハ俄ニ
冷氣ノニ相成田方諸作出穂後れいたし候内田方一般ニ虫付ノ
相見ヘ申候内当八月七日八日兩朝霜降下りノ候ニ付相驚見合
居候内近來ニ至り候而者田方之儀ノ早稻中稻穂枯殊ノ外多く
晚稻向青立相見ヘノ田坪ニ寄候而者寄虫之場所間々有之御檢
分可ノ奉願上旨小前ノ追々申出候得者麦作根付後れノニ可相
成訳杯利解申聞居候且又畑方之儀大風雨ノ痛之上冷氣故粟実
法時候相後れ別而ノ大豆作之儀者葉枯口腐入実法之儀迎もノ
無御座見受一同極々心痛仕御年貢上納ノ仕立方如何可仕哉と
甚以歎々數次第ニ御座候間ノ乍恐比段先つ御届奉申上置御檢
見御願ノ之儀者治定仕御願奉申上候様可仕候 依之ノ私共惣
代印形仕御届書奉差上候 以上

辰八月

日田郡五馬市村百姓代 徳右衛門

組頭 音平

庄屋 謙平

出口村百姓代 喜七

組頭 直右衛門

庄屋 弥左衛門

芋作村百姓代 与市

組頭 彦兵衛

新城村百姓代 藤兵衛

組頭 勇七

庄屋 又市

桜竹村百姓代 長右衛門

組頭 幸左衛門

庄屋 楯藏

塚田村百姓代 八兵衛

組頭 連平

庄屋 俊左衛門

本城村百姓代 惣左衛門

組頭 喜兵衛

庄屋 團九郎

日田県

御役所

辰九月筋代申談書 筋代 本城團九郎

一去卯十二月の当辰六月迄郡中入用御證印帳／相仕置候得者
御役所ニ御改無之候間／郡中惣代の見届之上奥書御頼申
度事

此廉奥印いたし置候

一当辰御年貢買替米納願立方並欠数者／可無御評義被下度事

此廉相決しふ申候

一郡中入用前割当春取立候処最早引足不申／丸屋ニ而多分借

財相嵩極々差支候間前割／取立之義御評義被下度事

此廉相決しふ申候

一郡中入用当春割申取立候内玖珠下毛両郡／之内未夕御納無

之不納之村方ハ早々／相納候様御通達被下度事

此廉不納村方ハ早速相納候様相決申候

一此節花月川大橋御普清御入用之義ハ／御上御下渡被 仰
付候処人足之義ハ郡中の／出夫いたし候得共此度新規遣方ニ

相成り／多分之人足高ニ御座候間何分日田一郡ニ而者出夫
出来兼候間郡々の助入出夫被下度事

此廉一応郡方ハ引取相談之上会所へ可申出筈

一知県事様御儀近々之内御下向ニ相成候間／御出迎其外世話
遣り惣代人当御取極置御許義被下度事

此廉相決しふ申候

一人馬賃錢余荷割賦取立之義御評義被下度事

此廉相決しふ申候

一中城伊勢屋相損し住所難致ニ付両三ヶ年／借宅致居候間普
請之義毎々頼出候ニ付御許義被下度事

此廉已迄相延候筈

右之通被 仰聞承知いたし候依之印形したし候 以上

辰九月十三日

日田 惣代
玖珠

明治元辰十一月七日 塚田俊左衛門宅ニ而出会

筋代 森 謙平

十月廿日申談

一当辰御年貢米御取立之義御主法整備 仰付候処／未御主法

之治定相成ふ申候得共追々御取立差向候間ノ諸庄屋其外書

當いたし置候様御沙汰相成ニ付御評義被下度事

一長崎御廻米買替納石数取極早々願立候様御評義被下度事

一長崎御廻米納入用取立方御評義被下度事

一日田県諸役御用御出役並人馬賃錢共別紙之通ノ御書取ヲ以

被仰渡候間郡々村々商物其外共行届候様可達事

一会所詰諸高取儀八郎来十一月限り交代御役人当ノ御取極早

々願立候様御談し被下度事

一大原社境内において富興行願立度段社中ノ願書差出候間

得斗御披見之上御評義被下度事ノ尤神納倉ヲ以神楽殿其外

修覆取計度段ノ申出候宜敷御談被下度事

一会所詰之儀是迄給扶持ニ而者難相勤趣達ノ御聴郡中申談相

當之給扶持ニ而郡々ノ罷出精勤可致旨御沙汰ニ相成候間得

斗御評義之上以來相当ノ之給扶持杯ニ而御取極被下度事

一当辰御年貢米大豆御取立之儀就 御一新歩返ヲ以ノ御取立

被 仰付候御内沙汰有之候間郡々村々者恐得之ノため申談

置候事

日田県諸役御用出役之節人馬賃錢休泊

料拂方規則

一休泊共賄料之義者上下何人幾泊或者幾賄と申儀ノ出役之者

名判之小手形宿主へ相渡正月ノ六月迄之分ハノ七月上旬ノ

十二月迄之分ハ十二月中旬右両度ニ小手形取ノ集日田県江

為差出引合之上拂方可致事

十一月

中城河岸船方

中村 晋策

草野 忠右衛門

広瀬 之右衛門

日隈 小八郎

佐藤 陸八郎

小迫 鬼三太

友田 時三郎

城城(内) 利右衛門

上井手 仙藏

十二町 作四郎

米壹石ニ付

一元八匁

四倍四分

當時三拾五匁

辰十一月六日

会所

船板壹艘向

森 謙平殿

已前四百目
當時壹貫八百目

大工

四倍五分
拾三匁
六捨目

船乘兩人^ニ而

四倍四分
廿六匁

〃 百四十目
五倍四分

覚

一貳人

但 壹人^ニ付

賃錢 三百八拾文

□米 壹升 飯料

右ハ御米取立御改正ニ付村仲仕雇入候間書面之人数ノ其御筋内ニ而人柄実躰ニ而達者成もの、成人撰当ノ十一日早朝仲仕頭寺内村桂助方へ御差出 被成候人数ノ相揃候義ニ付決^而

無遲滞御差出候被成候 以上

一手間代之儀昨年迄壹人ニ付拾五匁組頭分ノ拾匁有之候処諸賃錢引下ニ付当年ノ庄屋分拾匁組頭分八匁相詰いたし申極候ニ付

一富之儀別紙写之通事
一御米改革之事

乍恐以書附奉願上候

近年金銀不融通ニ付土地產物不捌^ニ而市在共一体ノ疲弊仕居候折柄年末隣国豊前宇佐肥後ノ熊本並久住宮ノ原等大富興行有之加之当秋ノ筑前太宰府肥前田代筑後柳川豊後鶴崎辺ノ追々統而興行相成当地之もの存候と唱富札をノ売候もの數多有之毎月当地ノ正金持出候而莫太之ノ高ニ御座候然ル上者下々地正金拂底之央益他国ニノ出候訳ニ御座候就而者何卒当地於三本松富興行ノ御免被 仰付様奉願上候 存候得者他国之もの目的ニ仕ノ地方之買入を相禁候て土地之障リニ者御座候得共 尤富講之儀者商中之兵法ニ御座候得共請元之損益者ノ難

計奉存候得共他方存シ之もの多人數込兩町并ノ三本松最寄數
ふ來可仕義必然ニ奉存仕法書左ニ奉告

一富講御免 被 仰付候上者嚴重取締仕月々興行仕候ノ就而
者 乍恐御出役様御出張奉願上候

他国ノ買入候事を第一ニ仕地方之ものは迄旅国之富
札ノ買候高札

但 一万余ニ御座候得者此度仕法相立地方之ノ買入者右

高ノ減少仕候様取計仕度奉存候

一御運上月百兩之見込を以てケ年金子貳百兩上納ノ仕度奉願
上候

当御支配所中往環道筋甚々悪敷人牛馬難義ノふ少事ニ

御座候間右取繕其外破損所御手当之ノ内へ御差加へ

被仰付候て難有奉存候

一大原宮江富元のものノ見込を以てケ年金三百兩宛ノ神納仕
度奉存候事

一他国ノ月々入込候旅人一會ニ付凡千人前後六七日者止宿ノ
可仕左候得者老人前凡金貳兩宛遣捨候分ケ月金貳千兩ノ
此地へ落金ニ相成可申哉ニ存候

一富興行御免被 仰付候上者十一月中旬迄之内神会ノ仕度奉
願上候講会之節者勿論前後多人數召遣ノものともハ兩町近
在之内神会付立奉願上候ノ講会之節ハ勿論前後多人數兩町
近村之内問屋ノ相立嚴重取締可仕存候 右ハノ御一新之御
英断を以何率願之通御聞濟被ノ仰付被下置候ハ、重疊難有
仕合奉存候 依之ノ乍恐印形書付ヲ以奉願上候 以上

明治元辰年十月

田嶋村 宣之助

中津や 源兵衛

松木や 吉左上門

枅や 丈右衛門

伏見や 嘉左衛門

日田県御役所

巳十月十一日用談書

一來午郡中入用前割御取立割賦員數御評儀被下度事

是者四拾匁當ヲ以十一月取立之積リ申談候

一去辰郡中其外不納村々多分有之丸屋方借り立ヲ以ノ遣拂致
置候処利息相高仕解方差支居候間郡々ノ村々申合当月十五
日迄之内利足相添御取集メ御納ノ可被成候尤日限通相納候

村方^レ利益等難相前段申出候間／此上無等閑御取集メ御納可被成候事

是者奥筋ハ別紙之御村々早々御納可被成候

一 当巳御年貢之内買替納員數御願度ニ付御評儀／被下度事

是者受負人江相談中ニ御座候

一 御年貢御取立之儀昨年中主法仕替候ニ付仲仕雇／立ニ而召仕候得共多分入用相掛リ候ニ付篤与御評儀被下／度事

是者一俵ニ付結賃四匁ノ、当年試ミ之積申談候 尤此

目度左之通／去辰仲仕賃扶持米代^口兩藏所高メ金百八拾

六匁永／四百七拾七文余 此米凡六千石四斗入ニして

凡一万五千ノ俵一俵ニ付凡四匁五分クスハ是迄一俵ニ

四匁四分之由四斗入と成候而ハ／取扱輕々候得共飯米

高直ニ付矢張四匁位ハ当年丈ハ不懸而ハ／如何与右様

取極申候 但仲仕出方者昨年之通り

一 去々卯長崎御廻米納入用請勘定不足并去辰年分共／御見届

之上御評儀被下度事

是者大凡追欠取立ニ不及様見受候間其俵帰付いたし候

尤／取調中ニ付請仕上之上演舌可有之候

当年者先ツ試ミニ米取立候ニ付永式拾五文当リヲ以取

立可申哉与／申談候左候得者昨年之凡半方ニ相成可申哉

一 郡々宿繼村々御用状并会所状持御先触持賃者／夫々別帳ニ

認メ十一月十日迄之内差出可被成候

是者順達日等無相違様立会取調書上候筈申談候但会所

／状持ハ一里九匁ニ候得共八匁積リ申談候

一 御廻米御取立御藏所詰庄屋名前取調郡々とも／書出之事

是者順番是迄之通を以名前当月十九日迄書出可被成候

様／申談候

一 知事様并大參事様少參事様御通行之節／下座等不致心得違

之小前有之候間以來者御通行御巡村之節不敬之民無之様小

前末々迄行届候様／可申諭旨御沙汰有之候間御村々共村役

人^ノ精々／心付ケ不敬無之様御申諭可被成候事

一 御米俵四斗入

前品

外俵 四婦編み 壺婦八寸ツ、長サ二尺四寸

尻かかり 十二かゝり

メ小繩八尋

内儀 長サ式尺式寸

尻かかり小繩

メ 阿み小繩七尋半

上結繩 十八尋 早迄より少し小さくてよし

目貫繩 四尋

さん 六寸

上巻 右ニ準久

内札板木ニ而左之通

日田県支配所豊後国日田郡何村

今已御年貢米 但四斗入

明治二年十一月

御出役

御名前

右者出会可申談答ニ候得共御取立中ニ付以書中ノ御濱達申上
候此状早々御順達可被成候 以上

十月十三日

五馬市 謙平

明治二巳十二月廿二日本城團九郎宅三而出会

筋代 五馬市 謙平

メ 桜竹 楯蔵

塚田 俊左衛門

五馬市 謙平

桜竹 楯蔵

新城村 勇七

出口村 与左衛門

本城 團九郎

※この日の記録なし
明治二巳十二月專稱寺三而出会

筋代 新城 又市

五馬市 謙平

乍恐以書付奉歎願候

日田玖珠下毛三郡村村々当已畑方御年貢之儀稀成ノ凶作ニ付

大豆五分御引上金六兩永八百三拾八文式分四厘之ノ石代を上

納仕候様被 仰出承知奉畏候然ル処ノ村々皆濟勦定仕見候処

初二兩度之御上金引之ノ当月可納ト凡初納之四双倍ニ近ク相

当リ小前取立方ノ村役人者当惑心痛仕候処村々共追々小前歎

出何分皆／上納出来ふ申候ニ付此上御慈悲之御所置御歎願奉
／申上呉様申出候間類外之値引方被仰付候上者／難有奉存候
速ニ皆済可仕決之段精々利解申聞候処／数々御仁恤之程者厚
ク奉感悦候得者九月已来御／見聞之通畑作皆無之耘地不少所
務候平均三月ニ／届兼候凶作ニ而今日夫食ニも差支候折柄諸産
物者／二納限壳尽し其上連年凶作之追繰ニ而極々／金子不底
故貸借之道施果爰ニ才覚方十方ニ／暮一向相歎候間御仁恤之
□へ候様ニ而奉歎願候も／恐入候訳ニ御座候得者苦情ニ難懸御
座候尚格別之／御仁恵ヲ以皆済金之内初納通今度御取立相掛
分／来午九月迄御猶豫之程奉願上候右趣之通被／仰付被下置
候て莫大之御仁恤之程一同難有仕合ニ／奉存候 依之私共惣
代印形仕歎願書奉差上候 以上

巳十二月

惣代

(日田郡天瀬町桜竹三三七)